

平成19年度政策予算案について

(平成19年5月23日：記者発表)

平成19年度の政策を盛り込みました補正予算案がまとまりましたので、その概要についてご説明申し上げます。



本年は、選挙の年でありましたことから、当初予算は骨格予算としておりましたが、引き続き、2期目の市政を担当させていただくこととなりました。

私は、これまで「3つの活力と3つの安心」を柱に110項目の公約の実現に向け、千歳市の特性、優位性を活かしたまちづくりの推進に、取り組んでまいりました。

2期目の取り組みの中でも、これまでの地域経済の活性化、財政の健全化、重点施策の推進などの課題も含め、公約の中で、76項目の政策をマニフェストとして盛り込みましたが、今回の予算編成にあたりましては、この実現に向けた政策を中心に『みんなで進める協働予算』と銘打って、取りまとめたところであります。

この内容につきましては、まず、「3つの活力」により「元気な千歳に」を柱とした政策についてであります。1つ目に『経済の活性化』としては、「観光振興」、「農業振興」を、2つ目に『市民協働のまちづくり』として、この4月からの「みんなで進める千歳のまちづくり条例」の施行に伴い「みんなで、ひと・まちづくり基金」に5千万円の積み立てなどを計上したところであります。

3つ目の『財政の再生』では、市の財政健全化の推進とともに、2期目の大きな課題の1つと掲げました「土地開発公社の経営健全化」の推進として、現在の「公社の経営健全化計画」を見直し、公社に対する未払金の解消等に平成18年度決算剰余金を財源に2億円を追加したところであります。

このほか、「広域行政の推進」として広域の可燃ごみの受入れなどの取り組みを進めることとしております。

また、住みよい千歳の実現のための「**3つの安心**」といたしましては、1つには『**福祉・医療の充実**』として、市役所本庁舎のバリアフリー化、高齢者用火災報知器給付制度や障害者自立支援教育訓練給付制度の創設、市営住宅の建替えの推進などを、2つ目に『**子育て・教育の充実**』では、地域安心・安全情報共有システムの導入、乳幼児紙おむつ用ごみ袋支給制度の創設や新生児訪問の拡大、教職員用パソコンの整備やスクールカウンセラーの拡充などの「学校教育の充実」を図るとともに、「市民球場の整備」などを計上しております。

3つ目として『**環境・防災の充実**』では、「防災学習交流センターの整備」、「小学校の耐震化改修事業」を織り込みました。

これらの実施に伴い76項目の公約のうち、当初予算で23項目、今回の補正予算で29項目となり、重複分を除き、合わせて50項目に係る事業を織り込み、総体では、ソフト事業で1億4千万円、投資的経費では、16億2千万円を計上しました。

また、平成17年度から取り組んでおります重点施策につきましては、今回1億8千万円を追加し、今年度の総額では10億1千万円としております。

これらの結果、今回の政策予算の規模につきましては、一般会計と下水道事業会計の2会計の補正予算を予定しておりますが、一般会計では当初予算454億円に17億6千万円を追加し、471億6千万円と、前年度当初予算に比べまして4億1千万円、0.9%の増となりました。

また、下水道事業会計では、当初予算に6千万円を追加し、一般会計、特別会計及び公営企業会計の総額では795億8千万円と、前年度予算に比べ、15億9千万円、2.0%の増となったところであります。

なお、今回の補正予算には計上しておりませんが、国から少子化対策の一環として示されました「妊婦健康診査の公費負担の拡大」につきましても、今年度の実施に向けて、取り組んでいるところであります。

この予算案につきましては、6月4日に開会予定の第2回定例市議会に提案してまいります。

平成19年5月23日

千歳市長 山口 幸太郎